



# 公立阿伎留医療センターだより

2021年8月23日発行 No.12 発行 阿伎留病院企業団/公立阿伎留医療センター

## 新型コロナウイルス感染の急拡大 妊婦さんの感染増と出産懸念。ワクチン接種が勧められます。

公立阿伎留医療センター 院長 荒川 泰行

妊娠中に新型コロナウイルスに感染すると、特に後期の感染ではわずかですぐ重症化しやすいとされています。一般的に、新型コロナウイルスワクチンを接種することのメリットが、デメリットを上回ると考えられていますので、特に感染の多い流行地や感染のリスクの高い医療従事者等や、糖尿病、高血圧、気管支喘息などの基礎疾患を合併している方は、是非新型コロナウイルスワクチンをご検討下さい。

アメリカでは、新型コロナウイルスワクチン（mRNA）の接種を受けた35,691人の妊婦さんについての調査によりますと、発熱や倦怠感などの副反応の頻度は妊娠していない女性と同程度でした。また、ワクチンを接種した後に妊娠を完了した827人のデータによりますと、流産、早産、胎児の発育遅延、先天奇形、新生児死亡が起きる確率は、ワクチンを接種していない妊婦さんと変わりありませんでした。さらに、イギリスからもワクチン接種した妊婦さんと接種していない妊婦さんの流産率は変わらないという報告があります。

### はじめに

新型コロナウイルス感染「第5波」により日本列島各地で感染爆発が起こり、今までに経験したことのないような“感染災害の非常事態”に陥り感染制御が難しくなっています。特に、新型コロナウイルスの「従来株」から感染力が強い変異種「デルタ株（インド型）」へ置き換わりが進んで9割超を占めるようになりました。この感染の急拡大とともに50代以下の若年層・中年層に新規感染者数の急増が鮮明となり、これに伴い現役世代での重症患者の割合の上昇も目立っています。

東京都は、2020年4月から21年7月までの妊婦の陽性者数は計460人ですが、このうち今年7月は速報値で98人となり、ひと月当たりで最多となっています。この妊婦感染増加の背景には「デルタ型」の変異ウイルスの急拡大の影響が考えられています。

先日、妊娠中に新型コロナウイルスに感染し自宅で療養していた千葉県柏市の妊娠29週（8ヶ月）の30代女性が、入院先が見つからないまま、医師不在の

状態で自宅での出産を余儀なくされ、新生児が死亡していたという大変痛ましい事例が報道されました。感染の拡大で病床が逼迫するなか、地域によっては、コロナに感染した妊産婦を受け入れる周産期医療態勢の脆弱さ（破綻）が浮き彫りになりました。

## 専門家は妊婦の時期を問わずコロナワクチン接種を推奨

インターネット上では、「胎児への影響、第2子を妊娠しなくなる、流産しやすくなる」などコロナワクチンの不確かな情報が錯綜して妊婦の不安や懸念を煽る形になっています。妊婦は感染時の重症化リスクが高いため、これまでワクチン接種に消極的な妊婦や家族が多いことが指摘されてきました。

CDC（米疾病対策センター）は8月11日「コロナワクチンの安全性が確認されたとして、妊婦に対して積極的に打つことを奨励する」との「推奨」の勧告を出しました。日本産科婦人科学会、日本婦人科医会、日本産婦人科感染症学会は3学会合同で妊産婦のみなさまへのお知らせとして、今日14日「海外での接種状況を踏まえ、母子ともに重篤な合併症の報告がないことから、『希望する妊婦はワクチンを接種できる』との見解を示しています。厚生労働省も、「コロナワクチンが妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼす報告はないことから、根拠のない不正確な情報に惑わされることなく、妊婦は新型コロナウイルスワクチンについての正しい情報（知識）を身につけて正しく理解したうえで、ワクチンを接種すること」を呼びかけています。

## 妊娠と新型コロナウイルスワクチン

### 妊婦向け「メッセージャーRNA ワクチン」に関する Q&A

日本産科婦人科学会、日本産婦人科医会、日本産婦人科感染症学会の3学会合同のお知らせ「女性のみなさまへ新型コロナウイルスワクチン（mRNA ワクチン）Q&A」を下記にご紹介致しますのでご参照下さい。

- Q1. ワクチンで不妊になることはありますか？これから妊娠を考えているのですが、mRNA ワクチンを接種しても大丈夫でしょうか？
- A1. 新型コロナウイルスワクチン（mRNA ワクチン）で不妊になるという科学的な根拠は全くありません。
- Q2. 妊娠中の女性は mRNA ワクチンを接種しても大丈夫でしょうか？流産することはありますか？
- A2. 妊娠中の女性でも mRNA ワクチンを接種しても大丈夫です。すでに多くの接種経験のある海外の妊婦に対するワクチン接種に関する情報では、妊娠

初期を含め妊婦さんとおなかの赤ちゃん双方を守るとされています。また、お母さんや赤ちゃんに流産などの何らかの重篤な合併症が発生したとする報告もありません。

Q3. 不妊治療中ですがワクチンを接種できますか？

A3. 不妊治療中の方も、接種できます。接種後は発熱などの副反応があることがありますので、可能であれば妊娠前の接種をご検討下さい。

Q4. 妊娠のいつの時期に接種した方がいいのでしょうか？

A4. いつの時期でも接種可能です。心配な方は器官形成期（妊娠 12 週まで）を避けることをお勧めしていますが、現時点で明らかなワクチンによる催奇形性（胎児に奇形が起きること）の報告はありません。また、地域の流行状況にもよりますので、主治医にご相談下さい。

Q5. 妊娠中にワクチンを接種して、熱が出たらどうしたらいいですか？

A5. アセトアミノフェン（商品名：カロナールなど）は服用して構いません。その他の解熱鎮痛剤は妊娠中に服用を避けた方がいいものもありますので、主治医にご相談下さい。

Q6. 出産等で mRNA ワクチンの接種間隔が延びてしまいそうです。大丈夫でしょうか？

A6. 接種間隔が延びても問題ありません。

Q7. 妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病などの合併症がある場合でも、接種しても大丈夫でしょうか？

A7. 患者さんにより合併症の状況が異なりますので、事前に産婦人科の主治医にご相談ください。一般的に、合併症があると、COVID-19 が重症化するリスクが高くなります。したがって、可能であれば接種することをご検討下さい。

Q8. 妊娠中に mRNA ワクチンを接種すると赤ちゃんに免疫が移行しますか？

A8. 抗体が胎盤を通過して、赤ちゃんに移行するので、産後に赤ちゃんを感染から守る効果が期待できます。

Q9. 授乳中の女性は mRNA ワクチンを接種できますか？ ワクチンを接種したらミルク（人工乳）に変更した方が良いですか？母乳から赤ちゃんに免

疫が移行しますか？

A9. 接種できます。mRNA ワクチンを接種したことを理由にミルク（人工乳）に変更する必要はありません。mRNA ワクチンは母乳中に分泌されませんが、抗体が母乳中に分泌されますので、赤ちゃんを感染から守る効果が期待できます。

Q10. mRNA ワクチンが女性の健康に長期的な影響を与える可能性はありますか？

A10. 投与された mRNA は短期間に分解され、接種されたヒトの遺伝子に入ることではないので、長期的な影響はないと考えられています。

Q11. 生理中に mRNA ワクチンを接種してもいいのでしょうか？

A11. 問題ありません。生理痛に対し、痛み止めの薬を飲んでいる方は、mRNA ワクチンの接種後の痛みや発熱に対して解熱鎮痛剤を飲む場合には同じような内容の薬を飲むこととなりますので、薬の量が過剰にならないように気をつけて下さい。

Q12. mRNA ワクチンで月経不順や経血量が増えることはありますか？

A12. mRNA ワクチンが直接的に月経（生理）に影響を与えることはありません。副反応のストレスや、発熱などがあった場合、その影響で月経がずれたり、量が変化したりすることがあるかもしれません。

Q13. 経口避妊薬を飲んでいても mRNA ワクチンを打つことができますか？

A13. ワクチンを打つことができます。mRNA ワクチンにより血栓ができるとの報告はありません。心配な場合には主治医にご相談下さい。

Q14. ワクチン接種者に近寄ると感染すると聞きました。これは本当ですか？

A14. 本当ではありません。ワクチンにはウイルスのメッセンジャーRNA（mRNA）の一部のみが含まれていますので、感染力のあるウイルスが接触者から放出されることはありません。

Q15. ワクチンの成分や接種後にできる抗体が胎盤を攻撃すると聞きました。これは本当ですか？

A15. 本当ではありません。ワクチンの成分や接種後にできる抗体が胎盤を攻撃することはありません。